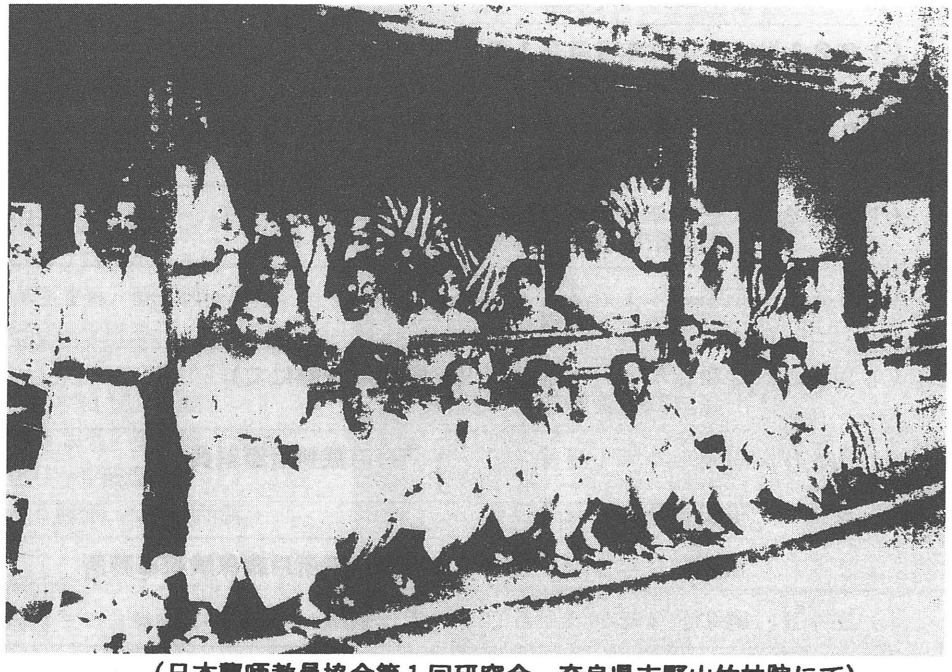
# 【桑子勤治年譜】

| 年　齢 | 時期・経歴等 |
|---|---|
| ０歳 | （１８９３）明治２６年９月１６日（火）岡崎市魚町に生まれる |
| １０歳 | （１９０４）明治３７年４月？日（ＮＴＴ（旧岡崎町役場跡）にて）<br>私立岡崎盲唖学校　入学 |
| １４歳 | （１９０８）明治４１年３月２１日（家康館（旧真宗教校跡）にて）<br>第１回卒業生 |
| | （１９０８）明治４１年４月？日（京都市にて）<br>京都市立盲唖院（絵画科）入学 |
| １８歳 | （１９１２）明治４５年３月２５日<br>第？回卒業生 |
| | （１９１２）明治４５年４月？日　} 同校にて |
| １９歳 | （１９１３）大正２年４月５日　教授法研究のため在学 |
| | （１９１３）大正２年７月１日（家康館（旧真宗教校跡））<br>私立岡崎盲唖学校　教員（聾唖部） |
| ？歳 | （１９？？）大正？年？月？日（？にて）<br>（妻）うさ（生まれ明治２４年４月８日）と結婚 |
| ２１歳 | （１９１５）大正４年６月２０日<br>（長男）文一誕生 |
| ２４歳 | （１９１８）大正７年２月２５日<br>（二男）好文誕生 |
| ２７歳 | （１９２１）大正１０年８月２１日<br>（三男）勇誕生 |
| ３０歳 | （１９２４）大正１３年５月１６日<br>（長女）とみ誕生 |
| ３５歳 | （１９２９）大正４年３月？日（？にて）<br>岡崎市教育会より表彰を受ける |
| ３３歳 | （１９３７）昭和２年１月２日<br>（四男）和保誕生 |
| ３９歳 | （１９３９）昭和８年３月１８日（旧広幡小学校跡にて）<br>私立岡崎盲唖学校　辞任 |
| ４６歳 | （１９３９）昭和１４年１０月？日　} 岡崎市裁判所筆耕員 |
| ４９歳 | （１９４５）昭和２０年７月？日 |
| | （１９４５）昭和２０年８月？日　} 岡崎市役所戸籍保険課事務所 |
| ５５歳 | （１９４８）昭和２３年９月１６日　定年退職 |
| ８５歳 | （１９７８）昭和５３年１１月１２日（豊田市畝部町、引接寺境内にて）<br>桑子魯石　翁句碑建之（発起人） |
| ８７歳 | （１９８１）昭和５６年２月１３日（岡崎市伊賀町、桑子宅にて）<br>朝１０時頃、心不全　逝去 |

# 「大和行」（当時３５歳）

昭和４年
７月２０日より本校は夏季休業中（夏休み中）関西地方の旅行をするべく２５日午前５時３８分の岡崎駅発の列車で出発した。早朝家を出る時は炎暑（暑かった）だった。汽車は名古屋駅から関西線を南へ西へと進行して法隆寺駅に下車して人力車で法隆寺へ行った。１時間位の拝観でしたが色々宝物を見て珍しく面白かった。午後２時２０分法隆寺を発車して吉野へ急行した。同４時頃吉野電鉄の電車で吉野駅に着いた。大阪市聾学校教員某先生が迎えに来て下さったから吉野山の架空索道（ロープウェー）で竹林院に無事（到着）し荷物を解いて同院内の湯へ入浴した。この日は大分疲れ寝床（ふとん）に入りました。
同日より５日間吉野山に滞在中は全国盲唖教育会は２６日午前９時より吉野山小学校において開催して北海道　台湾　九州　関東　関西　中国　中京基地等からの会員が参集（集まり）し私共の会員数は２５０人位列席し文部省詔問堤出され各校の堤出議案の討議をし一時休息をし昼食をしやがて再討議を継続し間もなく雨が降って雷が鳴って来た。しばらくして漸く午後７時に終了閉会した。
２７・８日の両日は竹林院において日本聾唖教育会の研究会に私も出席した。次に各校研究発表等については堤出校よりの説明があり　これは要するに今後一層の生徒の教育直接に関係ある時頃を研究する会合にしたいということだが研究会の時間は２７日午前８時より午後３時頃までに及び２８日は午前８時より午後４時半まであった。
２９日３０日の両日は竹林院において日本聾唖教員協会第１回研究会が開催され私も出席しました。そして同会の題目は①一般的手真似の整理および統一②国語教授上最も読み取りが難しい手真似の語句等という題下に難しい語句を選択して可否を討議し③聾唖生徒の訓練養護上で困難である事頃④聾唖教員なるが故に教授及び訓育上最も困難もしくは苦痛を感ずる事頃等の談話題予定だが都合上次回に延期することに決定した。しばらく漸く３０日午前１１時半に終了閉会した。それから午後中如意輪堂を見るので楠木正行は鎧もてかへらじのとの歌を彫ったという扉が猪此堂に？して居るのを見た。壮厳華麗な蔵王堂を見吉永神社その他等を見物して同５時頃大和地方から汽車で翌日無事岡崎に帰り着きました。

岡崎盲唖学校・聾唖部校友会
「第２５号　龍城之友」より
（１９２９）昭和４年９月１３日発行



（日本聾唖教員協会第１回研究会　奈良県吉野山竹林院にて）
桑子勤治は１列目左から６人目　　三浦浩は２列目左から４人目？
吉川金造は１列目左から３人目　　山中福代は２列目左から７人目
横江栄雄は３列目左から２人目？

# 「私の思い出」（当時６０歳）

今から五十年前私の十一才の時からの事を覚えて居ます。県立岡崎聾学校の前身私立岡崎盲唖学校は明治三十六年六月十一日創立され、翌年四月私は一年生に入学致したのであります。

一年生の時の私は大そう弱虫で恐しくなりましたが寄宿舎に入舎して佐竹夫婦先生は生徒と共に寄泊し生徒等大へん可愛がって方々へ連れて散歩したり遊んだりして面白くありましたので私家のことを少し忘れました。このようにして家庭的校風が養われたのであると思います。

そして入学以後は佐竹夫婦の両先生から国語と算数と発音（口話）の教授を受けました。佐竹校長は日夜東奔西走して母校基金の募集に運動し西三河地方の各所の寺へ盲生と私の両名を引卒し盲唖教育講演会を聞き盲生は点字、私も発音等をやって実際を人々に知らしむることになりました。

尋常科（現今小学部）の四年間も毎日学友は一所懸命勉強をし、舎生活では拭き掃除をしてやがて三月（明治四十一年三月）には卒業して四月から京都市立盲唖院（現今京都府立聾学校）絵画科に入学し後京都の画家望月玉溪画伯門に入り絵画を一所懸命に勉めてきました。

大正二年七月岡崎盲唖学校（現今県立岡崎聾学校）の教員として私に就任が任命され不幸なる聾唖生徒の前に立って修身や国語やその他学課をお教えし又は生徒と一緒に教室や寄宿舎でお話をしたり遊んだりして生徒達に体と心の成長をお助けするのが役目でした。

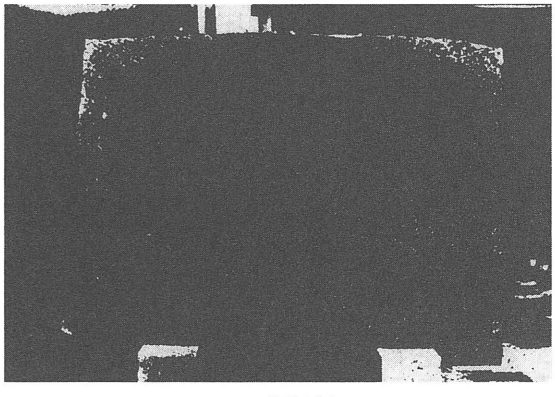
そして前後通じて十九ヶ年余勤続を致して居たのであります。昭和八年三月事情に依り学校を退職し後自宅に於ては熱心に日本画研究に心を注いで不幸なる同胞（聾唖）の為めに深く同情を持ち聾唖者の心理をも理解したのであります。

「愛知県立岡崎聾学校　５０周年記念誌」より
（１９５３）昭和２８年１０月１１日発行

---

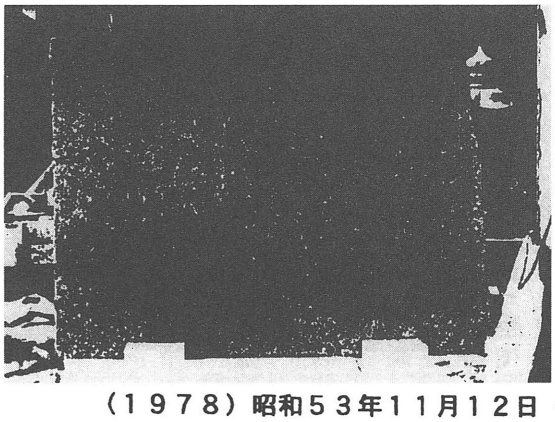
# 「桑子魯石 翁句碑建之」（当時８５歳）

（碑表）



| | |
|---|---|
| 巾一m五三十cm　台石高十さ十cm　厚み五十cm　巾一m九十cm | 打そへて　菊の花　手向けん　宿の　魯石 |
| 施工近藤石材店　書者北村五筆　発起人北村五ゲ　桑子勤吉治日　昭和五十受賞　桑子月年　勲七等一　俳門人と　名人　慶応元年　俳人桑子三魯　部落安国略　部下鋤る石歴　村治石　弄、に河石　々三芝　石号生国　長十の　とはる畝 | 畝、雲　後五国年子　は朗江三魯　村治石　弄、に河石　々三芝　石号生国略　長十の　とはる畝歴 |

（碑陰）



（後列左から１人目が桑子勤治）

（１９７８）昭和５３年１１月１２日（愛知県豊田市畝部西町、引接寺境内）